

令和7年度 第7回梅坪台地域会議 会議録

■ 日 時 令和7年11月11日（火） 午後7時～午後8時45分

■ 場 所 梅坪台交流館 2階 大会議室

■ 出席者

<委員>	岩崎 洋平	岩松 初男	川井 圭子
	鈴木 重久	鎮西 和也	長江 秀昭
	三岡 英隆	山村 史子	依田 武人

<交流館> 杉山 浩子（梅坪台交流館 館長）

<事務局> 塚田 征弘（地域交流課 副課長）

槌井 功二（地域交流課 担当長） 勝野 一城（地域交流課 主査）

■ 内 容

1 開会

2 会長あいさつ

3 報告・協議事項

（1）地区コミュニティ会議関係について（報告）

（2）これまでの議論と意見交換のまとめについて（報告）

・地域会議、地域学校共働本部（つなぐ会）の役割について（説明）

・提言書に向けて基本理念、ビジョンについて（協議）

（3）今後の進め方について（協議）

（4）区長会、子ども会への報告について

4 連絡事項

■ 議事内容（要約）

<主な意見>

（2）これまでの議論と意見交換のまとめについて（報告）

・意見、質疑なし

（3）今後の進め方について（協議）

<地域会議、地域学校共働本部（つなぐ会）の役割について（説明）>

・地域自治システムの概要に地域課題解決事業があるが、つなぐ会がここに当たるという認識でよいか。

→課題解決の方法としては、提言を受けて地域課題解決事業で地域と市が共働してやる方法、市の所管課が予算化してやる方法、提言を行わず予算化もせずに地域が実施する方法と色々ある。

・提言という話は、これまでの地域会議で特段、話がなかったが提言したほうが良いという事務局からの提案か。

→一般的に地域会議では、地域課題とその解決策を協議し、市に対して課題解決策や求める支

- 援内容について提言をする。議論が熟してきたため、提言してはどうかという提案である。地域で課題解決策が完結するなら提言しない方法もあるが、今回、地域学校共働本部を事務局とした事業の検討が進んでおり、その支援を市に提言する形がよいのではないか。
- ・第9次総合計画の時は、市から諮問があったので、答申をした。地域会議の役割は梅坪台の課題を見つけ集約し、意見交換をおこない、まとめて、行政に対して提言すること。提言することで梅坪台地域だけでなく市全体の課題として共有できる。また、いま実行部隊が出来上がりつつあるが、地域学校共働本部の話であれば教育委員会との連携や支援を依頼することができ、課題を共有する。市子連、市PTA連絡協議会にも認識してもらい考えてもらうことにつながる。
 - ・役割分担のところについては、共通の認識をいただけたということでおいか。

<提言書に向けて基本理念ビジョンについて>

- ・地域住民全体のつながりが希薄化していると断言しているが、上原は子ども会、高齢者クラブも活発にやっている。ここまで書いていいか。
- 市民意識調査結果の全市平均と比べて梅坪台地域は地域住民のつながりの希薄さについて、数値的に表れている。
- そこは理解しているが、対策として地域行事を増やすと書いた場合、今回の子ども会、区長会との意見交換会のように同じ意見が出てこないか危惧している。
- 希薄化しているものとしてこれまで話を進めてきて、実際、希薄化はしていると思う。子ども会も希薄化しているのは気づいているが、これ以上負担を増やさないでほしいと考えているのではないか。それを言葉どおりに受け取って進めるのか。子ども会は、このままそつと終わらしてほしいというのが本音で、区長さんも触ってほしくないと思っている。しかし、次の会長の方に話を聞くと是非やってほしいという意向だった。
- ・区長さんとの意見交換会の時に、昔より希薄になっているか、という聞き方していたと思うが、昔よりは希薄ということは、数字でも出ているので間違いないかと思う。大人につながりを広げていくことは必要だが、強制をすることで自治区、子ども会が疲弊してはいけない。バランスを見ながら進めることだと思う。
- ・話をまとめると自治区や子ども会も希薄さは感じているが、そこではなく事業のやり方、進め方、その負担を心配されて反発、懸念が出たのではないか。そこをどう進めるかが今後の課題、問題点なのかと思う。
- ・事務局の方、資料の作成ありがとう。この目標に間違いはないと思う。一の矢、二の矢、三の矢と対策を進める必要がある。資料に書いてある目標は、三の矢、四の矢まで必要であって、第一段階で達成するのは苦しいと思う。仕事の基本は、計画を立てて実施して、チェックしてアクションをする。つなぐ会は計画を立てやってみて、結果をチェックする。そして次に進む。ここを大事にして進めていただきたい。
- ・目指す姿（基本理念）・目標について、事務局で一般的な文章で作成してみた。梅坪台に対する思い、キーワード意見を踏まえて梅坪台オリジナルにしていただきたい。目標についてどこまで目指すべきか、豊田市平均を目指すのか協議いただきたい。
- ・市民意識調査は、何年に1度の調査か。何年先を目標に目指すのかというところもあり、次の調査で判断できるとよい。

→何年後の目標かということですが、提案を受けた後に事業計画を作りますが、よくあるのが3年、5年計画を作成しますが、5年後はどうなっているかという数字がここに来る。ただ、急激には変わらないと思うので、それを踏まえて検討いただけだとよいと思う。

- ・この文章は、生成AIを使って作成しているのか。借家率が高いのでこれらあたりを踏まえて、考えると目標も難しい。

→生成AIを活用したが、最終的には人間の手で修正しながら提言書案を作成した。目標については、東梅坪でつなぐ会を実施した場合の参加人数などを見積もってみて目標を設定するやり方もある。

- ・子どものつながりから地域全体のつながりを作る必要があるのであって、つなぐ会は子ども会と地域をつなぐことが目的ではないことに留意する必要がある。
 - ・目標に異論はないが、目標に向かってつなぐ会に頑張れと言われても数値は、上がらないと思う。つなぐ会は、一の矢であって、二の矢、三の矢がないと達成できないと思う。三の矢、四の矢をもっとこの場で議論しないと達成は難しい。
 - ・梅坪で区画整理をやって、20年30年の年月をかけて今の状況になった。対策を2年や3年やってもすぐには変わらない。梅坪の賃貸住宅が多いと言われるが、賃貸住宅が出来て、その時にガクッと下がったわけではない。何年もかけて下がってきた。賃貸住宅自体が原因ではないと思う。言いたいことは、目標は、それだけかけて下がったもの急には良くならないので、例えば活動を継続することでもいいと思う。つなぐ会をやってみると課題が必ず出るのでチェックしてまたやってみる。今の子どもが大人になったときに数値が上がるような長期的な目標で進められたらいい。日本の少子化施策でも長いこと実施しているが結果は出でていない。
 - ・目標は、市民意識調査でなくても小学校にアンケートを取って、その後の結果でもいい。
 - ・交流館で実施する事業の集客数や参加率でもいいのではないか。数値目標は掲げず、増加という方向性を目標としてもよいと思う。やってみないとそもそもその基準がないので、比較対象にするものがない。
- 提言書の短期的な目標は参加者数100人目標とし、別に10年20年先の最終目標を定めてもいい。
- ・入学お祝いは、子どもさんの地域デビュー（お披露目）の機会になるといい。子どもが楽しむだけの行事は子ども会に任せればいい。

＜地域での取組内容及び行政に求める支援＞

- ・入学進級お祝い会とお楽しみ会（クリスマス会）を提案したつもりだが、一つに絞っている理由を教えていただきたい。

→事業の一例として挙げたものだが、その2つの目的や内容に差がないのでまとめた。2つやってはいけないという意図ではない。つなぐ会以外に二の矢、三の矢としてやるべき事業があればご意見、アイデアを出しながら話し合っていただきたい。

- ・うめつば広場では、放課後児童クラブではないが居場所づくりをやっている。
- ・地域の方が見守る立場だけでなく、一緒に楽しむ立場で参加してもらうのもよい。
- ・授業の中では、高齢者クラブとの交流もあるが学校教育の中なので、事業とは少し違う気がする。学校は地域に出ていく取組がしたいと考えているが、そこは少し線を引いて整理しな

いといけないと思う。

→授業以外でもやれるといいのではないかと思う。

- ・第二の矢として、地域学校共働本部が交流館に出て高齢者クラブと交流する場を作る。居場所づくりは継続的な活動と思われるので、高齢者、周りの人、三世代、地域を取り込めるとよい。
- ・4年生主体で、高齢者の集いというのを毎年子どもたちが全部企画立案してやっている。それに高齢者クラブは、乗っていくだけ。スケジュール、演目はすべて考えてやってくれとう。老人たちは、本当に楽しませてもらっている。
- ・昔は大がかりで学芸会、運動会は家族全員が弁当を持って、テントを張ったりしていた。最近は子どもが何も荷物を持っていないので聞くと運動会だという。コロナもあってか学校の行事も本当に小規模、簡素化されてきていると感じる。昔は高齢者の席もあって安心して出かけられた。地域住民の人がみんな出かけて行った。学校のほうももう少し、規模を大きくして地域のみんなが楽しめるものにしていただけたら交流もできる。

→昔の運動会、学芸会といえば学校行事ではなくて地域行事だった。

- ・事務局にお願いがある。子ども会の意見交換会で12時まで延長したが、お母さんは昼食を作らないといけない。そのあたりの配慮は、忘れないでほしい。
- ・実働部隊として、地域学校同本部に支援をお願いしたいと書いてあるが、行事に来てもらうには、参加費をもらって保険料を払わないといけない。それを市で負担をできないか。支援の一つとしてご検討いただけないか。参加費でプレゼントをしたいと思うが、プレゼント代については、わくわく事業も市も補助がないので何かアイデアがないか。
- ・京町は保険料を徴収している。自治区の行事の際には、人数によって保険がある。プレゼントは1人当たり250円で文房具を渡す。クリスマス会は、チョコレートとクリームのケーキを300円程度で、参加者68人に渡している。ケーキの種類でケンカになって泣き出す子がいて後から買いに行ったが、これも大人も子どももいい想い出になる。
- ・提言書に、書いてないから絶対に出さないとことでもない。先ほども説明したが、地域課題解決事業の事業計画で位置づけることになる。ただ、保険料は出せても事業計画期間3年とか5年とかの時限的になるのでその後の見通しも必要。プレゼント代は出せない。
- ・幸い梅坪台は事業所が多いので、協賛をお願いすることも可能ではないか。

<区長会、子ども会への報告について>

・つなぐ会の二次案を作成した。2自治区は賛同してもらえそうだが、賛同していない自治区は、無償ボランティアを募集しなければならない。サポート委員、子ども委員を予定している。各2回のイベントに2回程度の打合せを予定。子ども会は行事の後に残ってもらい子ども会の行事としてプレゼントを渡したり、子ども会の勧誘をしたりしてもらえたと考える。地域と子どもたちと交流を図ってもらい、高齢者クラブにもかかわってもらう。サポート委員、ボランティアで構成し令和8年度から実施したい。西山自治区には、別途、説明にお伺いしたい。

→二次案の方針にある地域の方は、あくまでもボランティアか。お話しからは、子ども会の仕事を地域の方が代わりするようにしか聞こえなかった。地域の人が一緒に参加するイメージはないか。

→安全の確保は必要だが、地域の方が一緒に参加する事業、つながりのある事業にしませんかということを事務局は言っていて、子ども会の代わりではないということ。すぐにできることではないが、今は地域の人が運動会を見に行くと家族ではないと追い返されるが、昔のように地域の人も参加できる事業を検討してほしい。

- ・京町の場合は、1人の大人が2人の1年生をサポートしている。
- ・ゲームをやるのに子どものグループに地域の方も取り込んで一緒にやる。やれないおじいちゃんは、隣で見守るようなことを想定するということだろうか。子ども会のサポートから離れられていなかったが発想が広がった。地域学校共働本部として宿題にさせてほしい。

■ 今後の予定

令和7年度 第8回梅坪台地域会議

12月9日（火）午後7時00分～ 梅坪台交流館